

ケアマネジメント入門

2単位

担当教員：綿 祐二

介護現場におけるケアマネジメントプロセスの課題整理とエビデンスのある介護実践について学習する

講義目的・到達目標

「ケアマネジメントプロセス」の段階的課題を学ぶ

ケアマネジメントは、一般的に①インテーク→②アセスメント（情報収集と生活課題の分析）→③プランニング（個別介護目標の設定と計画・立案）→④サービスの実施（ケア実践）→⑤モニタリング（中間評価）→⑥サービス評価→⑦再アセスメントのプロセスを経ていく。それぞれの段階においては、それを支える理論が基盤となっている。その理論の整理をおこない、介護現場におけるそれぞれのステージの課題を抽出することが学習目標である。

介護現場におけるケア実践の理論構築を図る

実際の介護現場では、個別介護計画にそってケア実践が行われる。しかしながら、実践場面になると多くの課題が起こる。利用者主体性の原則から考えれば、フェルトニーズ（デマンド）を重視するが、専門的視点からのノーマティブニーズをどのように反映していくかが大きな課題でもある。ケア実践場面では、多くの価値観が存在する。例えば、食事場面で「経口」か「経管」か、「安全」か「自由」か、「行動制限」と「拘束」の違い、尊厳あるケア実践とは。実際の介護現場で起こる価値観の違いを理解して、どのように多職種連携によるチームアプローチを実践していくかを事例を通して議論を行っていきケア実践の理論構築を図ることが最終目標である。

講義の構成

講義の流れ

講義は、2つのステージで構成される。第1ステージは、ケアマネジメントプロセスの各ステージの課題について、介護現場、福祉現場における課題をグループワークによって抽出をおこなう。そして、その課題を支える理論（エビデンス）を各自で整理することを第1目標とする。第2ステージでは、実際の具体的な介護実践における方法論を議論する。最終的にケアのあり方、ケア実践の方法論、それぞれを支える理論を整理することである。「利用者本位のケア」「尊厳あるケア」「権利擁護」など理論とケアの実践とを結びつける素養を涵養することを目的とする。

1 ケアマネジメントプロセスの意義と基本的理解

2 各ステージの理論基盤の整理と課題抽出

3 ケア実践の課題

4 「理論とケア実践の融合」
「エビデンスのあるケア」の確立

5 最終修了レポート

講義のポイント

本講義のポイントは、介護現場に即した理論を整理するところにある。ケアマネジメントプロセスを具体的ケースを通して、課題を抽出していくことを目指して行く。

受講するにあたって

①事前学習の すすめ

ケアマネジメントプロセスの大まかな仕事の理解をしておくこと。

②参考図書

講義の中でそれぞれの課題にそって、参考図書を紹介する。

③評価基準

科目修了試験と出席による総合評価を行う。

④より学びを 深めるために

福祉現場は、多くの迷いの中での実践がある。変わらない命題的理念と変わりゆく制度や対象者を整理した上で、福祉専門職像を確立してほしい。